

職業イメージに関する研究

三島 勝正*・松本 卓三**

* 岡山理科大学工学部

**岡山理科大学理学部

(1998年10月5日 受理)

目 的

職業選択には、数多くの要因が影響している。仙崎（1988）は、職業選択の規定要因として、大きく環境的・文化的・社会的要因と個人的・心理的決定要因の2つを取り上げている。小川・田中（1979b）は、個人の職業選択に関係する要因については、個人の側における要因と、環境的要因とに大別して考えることができる、と述べている。そして、前者については、職業興味、能力、価値観、職業知識・イメージ、自己概念、パーソナリティ、などの諸要因をあげている。後者としては、個人が生活している文化、個人が成員である下位文化、個人が居住するコミュニティ、個人の直接的環境（家族・学校）、などの諸要因を述べている。これらのことから、職業選択に影響を及ぼす要因としては、主として個人的要因と環境的要因の2つが考えられる。

本研究では、前述した諸要因のうち、主として個人的要因と考えられる職業イメージの問題を取り上げる。職業を選択する際に、個人が抱く希望職業に対するイメージが、職業選択にかなりの影響をすると考えられる。イメージという言葉は、普通、心の中に浮かぶ像という意味で使われることが多い。しかし、それは、不十分な知識、不確かな、あるいは、ときには誤った認識という意味で用いられることもある。岡本（1972）は、職業イメージとは個々の職業に対して個人がもっている知識、評価（それは、正しいにせよ、正しくないにせよ）を意味する、ととらえている。そして、職業イメージを調査する項目を、職業の諸側面にしたがって次のように構成している。即ち、①仕事の単調さ、②仕事の自律性、③疲労、④収入、⑤作業環境、⑥身体の汚れ、⑦早朝・深夜の労働、⑧日曜・祝日の休み、⑨世間の評価、⑩親の反対、⑪技能習得の困難度、⑫将来性、⑬適性、という項目を取り上げて、中学生、高校生を対象として調査している。雇用職業総合研究所（1986）は、高校生が自分が就きたいと思う職業についてどのようなイメージを抱いているかを、①仕事と自己のかかわり、②仕事の特性、③労働条件・労働市場条件、④将来についての見通し、⑤社会的評価・位置づけ、⑥周囲の条件・親近性、についての20項目で調査し、職業群により特徴的なパターンがみられたと報告している。また、西山（1990）も、教師という職業への印象について、「楽しみの多いー楽しみの少ない」、「自分に向い

ている — 自分に向いていない」, 「家族に教師がいる — 身内に教師がない」他の計10項目で調査し, 教育学部生は経済学部生よりも, 教職に対して好意的なイメージが強いようであると報告している。

これらの職業イメージを取り上げた諸研究は, 職務内容の記述のような, より具体的な諸側面についてのイメージを調査している。しかし, 岡本 (1972) も指摘しているように, 職業に関するイメージは, 職業が極めて多様な側面をもっているのと同じだけ, 多くの側面をもっていると考えられる。そこで, 本研究では, より一般的な, より抽象的なレベルで, できるだけ多くの形容詞対を用意して, SD 法によって多様な側面をもつ職業イメージをとらえることにした。

なお, 本研究では, 大学生男子の教職希望者 (以下, 教職と略す) と工業技術者希望者 (以下, 工技と略す) を調査対象として取り上げた。両者を調査対象に選んだ理由は, 次のことによる。松本 (1993) によると, 教職と工技を比較すると, 職業的同一性の確立が, 前者が後者よりも, よりなされていると述べている。このことから, 両者の間には, 職業イメージにかなりの差異があるのではないかと考えられるからである。以上のことから, 本研究では, 個人が抱く希望職業に対する職業イメージについて, 大学生男子の教職と工技の間の差異を比較する。

方 法

1. 調査対象

大学理学部・工学部 1～3 年生の男子学生 171 名 (教職 84 名, 工技 87 名)。

2. 調査

「あなたは, 自分が希望している職業について, どのようなイメージを持っていますか。」という質問をして, 40 個の形容詞対からなるイメージ項目 (Table 1 参照) について, 「どちらともいえない」を中心として, 順に, 「やや」, 「かなり」, 「非常に」の 7 段階尺度 (SD 法) で評定を求めた。職業イメージに関する項目は, 淵上 (1984), 岩下 (1983), 吉良・佐藤・篠原 (1974), 小川・田中 (1979 a) を参考にして作成した。

結果と考察

1. 職業イメージの希望職種間の比較

館・松本・渡辺・松本 (1984) によれば, 大学理学部と工学部はかなり職業興味が類似していると述べているので, 学部ごとに分けずにまとめて分析することにした。

希望職種ごとに, 各職業イメージ項目に対して評定させた平均値 (以下, M と略す) と標準偏差 (以下, SD と略す) を算出した (Table 1)。 M が 5.00 以上のポジティブな項目は, 次のとおりであった。教職も工技もともにそれに該当する項目は, 「2 勤勉な」, 「4 知的な」, 「10 専門的な」, 「26 魅力的な」, 「29 慎重な」, 「31 価値のある」の 6 項目であっ

Table 1
希望職業に対するイメージの平均値と標準偏差及び *t* 検定の結果

No	イメージ項目	教職希望者 (N=84)		工業技術者希望者 (N=87)		<i>t</i> 値	
		<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>		
1	正直な	ずるい	4.50	1.20	4.64	1.29	0.73
2	勤勉な	怠慢な	5.13	1.25	5.83	0.95	4.09***w
3	進歩的な	保守的な	3.15	1.31	5.79	1.57	11.85***
4	知的な	知的でない	5.19	0.96	5.71	1.16	3.17**
5	清潔な	不潔な	4.58	0.94	3.93	1.25	3.83***w
6	大胆な	小心な	3.87	1.23	4.23	1.16	1.96
7	厳しい	あまい	4.77	1.19	5.67	1.03	5.26***
8	几帳面な	粗雑な	4.82	1.22	5.62	1.24	4.23***
9	柔らかい	固い	3.06	1.26	3.13	1.62	0.31 w
10	専門的な	専門的でない	5.08	1.33	6.33	1.10	6.67***
11	温かい	冷たい	4.90	1.26	3.45	1.35	7.21***
12	積極的な	消極的な	4.57	1.39	5.00	1.28	2.09*
13	民主的な	権威的な	3.63	1.44	3.78	1.35	0.70
14	活発な	活発でない	4.51	1.21	4.61	1.24	0.53
15	安定した	不安定な	5.58	1.24	3.98	1.38	7.92***
16	複雑な	単純な	4.96	1.41	5.48	1.27	2.52*
17	ゆったりとした	窮屈な	3.46	1.36	3.14	1.14	1.66
18	視野の広い	視野の狭い	4.31	1.42	4.15	1.51	0.71
19	個性的な	個性的でない	4.36	1.61	4.70	1.40	1.47
20	しゃれた	野暮ったい	3.61	0.82	3.48	1.32	0.77 w
21	融通が効く	融通が効かない	3.19	1.38	3.40	1.30	1.02
22	開放的な	閉鎖的な	3.20	1.23	3.47	1.38	1.34
23	活動的な	活動的でない	4.33	1.24	4.23	1.41	0.49
24	創造的な	創造的でない	3.99	1.27	5.51	1.18	8.06***
25	派手な	地味な	2.70	1.00	2.80	1.06	0.63
26	魅力的な	魅力的でない	5.02	1.31	5.41	1.24	1.99*
27	親切な	不親切な	4.85	1.19	3.91	1.06	5.43***
28	高尚な	低俗な	4.70	1.04	4.93	1.02	1.45
29	慎重な	軽薄な	5.14	1.88	5.57	1.12	1.80 w
30	機敏な	鈍感な	4.46	1.18	4.98	1.12	2.94**
31	価値のある	価値のない	5.64	1.10	5.95	0.98	1.94
32	豊かな	貧しい	4.12	1.24	4.61	1.04	2.79**
33	力強い	弱々しい	4.39	1.24	4.78	1.22	2.06*
34	美しい	汚い	4.20	0.94	3.56	1.00	4.28***
35	礼儀正しい	礼儀正しくない	5.19	1.01	4.15	1.08	6.46***
36	陽気な	陰気な	4.60	1.09	3.49	1.00	6.90***
37	理性的な	感情的な	4.19	1.24	5.09	1.04	5.12***
38	冷静な	衝動的な	4.86	1.08	5.16	1.14	1.76
39	科学的な	科学的でない	4.51	1.21	6.30	0.86	11.05***w
40	明るい	暗い	4.86	1.18	3.77	1.23	5.88***

(注) * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

イメージ項目は7段階尺度で評定。高い評定平均値ほどポジティブなことを示す。

通常の *t* 検定: $df = 169$

“w” は、Welch's method の *t* 検定を示し、それを実施したイメージ項目の番号とその *df* を下記に示す。

2 ($df = 154$), 5 ($df = 159$), 9 ($df = 161$), 20 ($df = 144$), 29 ($df = 134$), 39 ($df = 149$)

た。教職だけでそれに該当する項目としては、「15 安定した」、「35 礼儀正しい」の2項目であった。他方、工技だけでそれに該当する項目としては、「3 進歩的な」、「7 厳しい」、「8 几帳面な」、「12 積極的な」、「16 複雑な」、「24 創造的な」、「37 理性的な」、「38 冷静な」、「39 科学的な」の9項目であった。また、 M が3.00未満のネガティブな項目は、教職と工技ともに「25 地味な」の1項目であった。

次に、 M の t 検定の結果を述べる (Table 1)。教職が工技よりも M が有意に高い項目は、次のとおりであった。「5 清潔な—不潔な〔教職： $M=4.58$ ($SD=0.94$)>工技： $M=3.93$ ($SD=1.25$), $t_{(159)}=3.83$, $p<.001$ (以下、こうした記述のうち、 M と SD は略して表記する)]」、「11 温かい—冷たい〔教職： 4.90 (1.26)>工技： 3.45 (1.35), $t_{(169)}=7.21$, $p<.001$)]」、「15 安定した—不安定な〔教職： 5.58 (1.24)>工技： 3.98 (1.38), $t_{(169)}=7.92$, $p<.001$)]」、「27 親切な—不親切な〔教職： 4.85 (1.19)>工技： 3.91 (1.06), $t_{(169)}=5.43$, $p<.001$)]」、「34 美しい—汚い〔教職： 4.20 (0.94)>工技： 3.56 (1.00), $t_{(169)}=4.28$, $p<.001$)]」、「35 礼儀正しい—礼儀正しくない〔教職： 5.19 (1.01)>工技： 4.15 (1.08), $t_{(169)}=6.46$, $p<.001$)]」、「36 陽気な—陰気な〔教職： 4.60 (1.09)>工技： 3.49 (1.00), $t_{(169)}=6.90$, $p<.001$)]」、「40 明るい—暗い〔教職： 4.86 (1.18)>工技： 3.77 (1.23), $t_{(169)}=5.88$, $p<.001$)]」の8項目であった。逆に、工技が教職よりも M が有意に高い項目は、次のとおりであった。「2 勤勉な—怠慢な〔教職： 5.13 (1.25)<工技： 5.83 (0.95), $t_{(154)}=4.09$, $p<.001$)]」、「3 進歩的な—保守的な〔教職： 3.15 (1.31)<工技： 5.79 (1.57), $t_{(169)}=11.85$, $p<.001$)]」、「4 知的な—知的でない〔教職： 5.19 (0.96)<工技： 5.71 (1.16), $t_{(169)}=3.17$, $p<.01$)]」、「7 厳しい—あまい〔教職： 4.77 (1.19)<工技： 5.67 (1.03), $t_{(169)}=5.26$, $p<.001$)]」、「8 几帳面な—粗雑な〔教職： 4.82 (1.22)<工技： 5.62 (1.24), $t_{(169)}=4.23$, $p<.001$)]」、「10 専門的な—専門的でない〔教職： 5.08 (1.33)<工技： 6.33 (1.10), $t_{(169)}=6.67$, $p<.001$)]」、「12 積極的な—消極的な〔教職： 4.57 (1.39)<工技： 5.00 (1.28), $t_{(169)}=2.09$, $p<.05$)]」、「16 複雑な—単純な〔教職： 4.96 (1.41)<工技： 5.48 (1.27), $t_{(169)}=2.52$, $p<.05$)]」、「24 創造的な—創造的でない〔教職： 3.99 (1.27)<工技： 5.51 (1.18), $t_{(169)}=8.06$, $p<.001$)]」、「26 魅力的な—魅力的でない〔教職： 5.02 (1.31)<工技： 5.41 (1.24), $t_{(169)}=1.99$, $p<.05$)]」、「30 機敏な—鈍感な〔教職： 4.46 (1.18)<工技： 4.98 (1.12), $t_{(169)}=2.94$, $p<.01$)]」、「32 豊かな—貧しい〔教職： 4.12 (1.24)<工技： 4.61 (1.04), $t_{(169)}=2.79$, $p<.01$)]」、「33 力強い—弱々しい〔教職： 4.39 (1.24)<工技： 4.78 (1.22), $t_{(169)}=2.06$, $p<.05$)]」、「37 理性的な—感情的な〔教職： 4.19 (1.24)<工技： 5.09 (1.04), $t_{(169)}=5.12$, $p<.001$)]」、「39 科学的な—科学的でない〔教職： 4.51 (1.21)<工技： 6.30 (0.86), $t_{(149)}=11.05$, $p<.001$)]」の15項目であった。

以上のことから、教職、工技の両者とも、希望職業は、価値があり、魅力的で、知的な専門職であり、地味で、勤勉さ、慎重さが求められる職業だととらえていると思われる。

また、教職は工技と比べ、明るく、陽気で、温かみがあり、礼儀正しく、親切で、清潔で、わりと美的で、安定した職業イメージを持っていると考えられる。工技は教職と比べ、豊かで、機敏で、複雑で、力強いイメージを持っているが、知的で、理性的で、進歩的であることが必要とされ、科学的、創造性、専門性がより要求され、厳しさ、積極性、勤勉さ、几帳面さ、冷静さが求められているととらえていると考えられる。工技は、より魅力的な職業という認識もみられた。

なお、形容詞対からなる SD 法を用いた職業イメージに関係した研究としては、吉良他(1974)がある。これは、教育学部4年生を対象として、教育実習の前後で、20個の形容詞対からなるSD法で教職に対するイメージ(印象)を調査したものであり、直接比較は難しい。

2. 職業イメージの希望職種ごとの因子分析での比較

希望職種ごとに、どんな因子構造かをみるため、主因子法で得た11因子解(固有値1.00以上)をバリマックス回転をした。回転後の教職と工技の結果は、それぞれ Table 2 と Table 3 に示すとおりである。その結果で、因子名をそれぞれ次のように命名した。教職については、第1因子は「活動性」、第2因子は「寛容さ」、第3因子は「価値的」、第4因子は「純粹さ」、第5因子は「豊かな心」、第6因子は「安定性」、第7因子は「理性的」、第8因子は「厳格さ」、第9因子は「格好よさ」、第10因子は「融通性」、第11因子は「快活さ」と命名した。他方、工技については、第1因子は「厳格さ」、第2因子は「活動性」、第3因子は「柔軟性」、第4因子は「美的」、第5因子は「快活さ」、第6因子は「理性的」、第7因子は「寛容さ」、第8因子は「融通性」、第9因子は「豊かな心」、第10因子は「純粹さ」、第11因子は「安定性」と命名した。

このことから、教職と工技ともに、共通した因子としては、「活動性」、「寛容さ」、「純粹さ」、「豊かな心」、「安定性」、「理性的」、「厳格さ」、「融通性」、「快活さ」の9つの因子が認められた。その他、特徴的な因子として、教職では、「価値的」、「格好よさ」の2因子が、工技では、「柔軟性」、「美的」の2因子がそれぞれ認められた。両者とも、各因子の内容は若干異なっているが、かなり類似した因子構造であると考えられる。各職業イメージについて、特に、教職は価値や安定性に、工技は厳しさや柔軟性に重きをおいている構造とみられる。

Table 2
希望職業に対するイメージの因子分析結果（教職希望者：N=84）

No.	イメージ項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	共通性
14	活発な	.82	.13	.13	.08	-.06	.00	.11	-.01	-.09	.10	.05	.74
23	活動的な	.80	-.04	.02	-.13	-.25	.05	.07	.03	-.07	.19	.01	.78
12	積極的な	.73	.08	.25	.01	.01	.07	-.07	-.22	.12	.08	.15	.70
6	大胆な	.62	.29	.05	-.08	.23	.03	-.10	-.02	.15	-.09	-.22	.62
11	温かい	.61	.03	.33	-.18	-.12	.09	-.07	-.16	-.07	-.03	.24	.63
40	明るい	.59	.37	.15	-.13	-.11	.12	.05	-.12	-.04	-.05	.44	.76
18	視野の広い	.56	.14	.04	-.09	-.27	-.01	.23	.32	.12	.23	.16	.66
33	力強い	.40	.33	.29	-.08	-.28	.23	.06	-.23	.24	-.37	.16	.76
9	柔らかな	.05	.82	-.05	.02	-.15	-.03	-.09	-.03	.03	.11	.12	.74
3	進歩的な	.28	.81	-.02	-.18	-.05	-.11	.13	-.04	-.04	.06	-.03	.80
13	民主的な	.19	.61	.34	-.15	.03	.15	-.02	.22	-.09	-.00	.12	.64
17	ゆったりとした	-.02	.47	.09	-.04	-.30	-.04	-.12	.12	-.38	.47	.08	.73
26	魅力的な	.15	.06	.76	-.02	.02	.07	.04	.03	.27	.01	.11	.70
31	価値のある	.22	-.05	.75	-.14	-.03	.20	.27	-.16	.02	-.07	-.02	.78
27	親切な	.17	.07	.57	-.32	-.30	.13	-.27	.01	-.14	-.08	.25	.73
19	個性的な	.32	.31	.50	-.06	-.30	-.22	.03	.12	.22	.18	-.00	.68
5	清潔な	-.04	.11	.15	-.79	.01	-.19	-.03	-.07	-.08	.12	.17	.75
1	正直な	.05	.32	.07	-.72	-.12	.00	.12	-.21	.06	.07	.03	.71
4	知的な	.27	-.15	.25	-.58	-.21	-.08	.31	.07	.02	-.23	-.02	.70
2	勤勉な	.16	.03	-.20	-.47	-.21	.23	.24	-.26	.31	-.14	.17	.64
32	豊かな	.11	.06	.04	-.09	-.73	.30	-.01	-.24	-.00	-.03	.02	.70
22	開放的な	.41	.15	-.02	-.27	-.55	.17	-.02	.27	-.05	.13	.03	.69
10	専門的な	-.06	.24	.17	-.01	-.55	-.24	.32	-.23	.22	.11	.14	.68
24	創造的な	.39	.17	.40	-.20	-.49	-.26	.02	-.06	.08	-.04	-.14	.72
28	高尚な	.06	-.02	.00	-.28	-.03	.73	.24	.03	-.01	-.20	.03	.72
15	安定した	-.03	-.03	.32	.27	-.21	.63	.07	-.04	-.05	.28	.04	.70
29	慎重な	.21	-.12	.28	-.32	-.18	.46	.21	.17	-.06	.05	.12	.59
34	美しい	.18	.30	.40	-.33	.09	.44	-.06	-.18	.05	-.01	-.00	.63
38	冷静な	.07	-.02	.07	-.04	.00	.11	.86	.03	-.03	-.07	.09	.78
37	理性的な	-.07	-.01	.01	-.28	-.06	.24	.63	-.24	.10	.14	-.06	.63
7	厳しい	.08	-.07	.03	-.13	-.16	-.10	.08	-.82	-.08	.10	.09	.78
8	几帳面な	.10	.08	.05	-.30	-.04	.19	.06	-.46	.33	-.11	-.02	.48
16	複雑な	.38	-.14	.25	-.07	.02	.00	.04	-.43	.27	-.12	-.41	.67
39	科学的な	-.19	-.12	.24	-.06	-.17	.01	.15	-.02	.72	-.00	.17	.71
25	派手な	.30	.07	.07	.11	.16	-.16	-.24	.03	.64	.22	-.22	.72
20	しゃれた	.24	.10	-.04	-.02	-.01	-.03	.08	-.09	.10	.79	.05	.72
21	融通が効く	.41	.38	.04	-.10	-.09	.20	-.16	.24	.17	.44	-.07	.67
35	礼儀正しい	.19	-.03	.24	-.41	.02	-.01	.36	-.11	-.02	.06	.57	.73
36	陽気な	.45	.28	.12	-.25	-.03	.03	-.11	-.00	.11	-.04	.56	.70
30	機敏な	.37	.23	.19	.08	-.18	.26	.18	-.01	.29	.25	.44	.71
	固有値	5.15	3.09	3.05	2.90	2.29	2.15	2.10	1.95	1.84	1.77	1.71	28.01
	寄与率(%)	12.88	7.71	7.63	7.25	5.72	5.38	5.26	4.86	4.61	4.43	4.28	70.01

Table 3
 希望職業に対するイメージの因子分析結果 (工業技術者希望者: N=87)

No.	イメージ項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	F9	F10	F11	共通性
29	慎重な	.79	-.12	-.19	.13	-.12	.20	-.00	-.08	-.14	.08	.08	.78
30	機敏な	.65	-.15	.09	-.27	-.01	-.02	.03	.35	-.18	-.07	.06	.69
7	厳しい	.54	-.25	-.08	-.01	-.08	.17	-.06	-.23	.31	.07	-.39	.71
10	専門的な	.54	-.11	.19	-.18	-.05	-.01	-.11	-.12	-.18	.30	.04	.53
24	創造的な	.53	-.27	.26	.05	.31	.15	.03	-.05	-.09	.07	-.02	.55
8	几帳面な	.49	-.01	.02	.20	-.28	.16	.19	-.22	.09	.35	-.14	.62
31	価値のある	.42	-.32	.04	.06	.10	.30	.05	-.21	-.23	-.06	.39	.64
14	活発な	.29	-.71	.20	-.08	-.03	.02	.24	-.02	-.12	-.04	.12	.72
6	大胆な	-.21	-.70	.28	.28	-.11	-.07	-.06	.03	.15	.17	-.12	.78
12	積極的な	.24	-.66	.06	.12	.16	.25	.23	.04	.17	-.04	-.12	.69
33	力強い	.18	-.61	-.07	-.03	.31	-.02	-.19	.23	-.13	-.09	.12	.63
23	活動的な	.25	-.56	.15	-.21	.17	-.34	.00	.20	-.19	.33	-.16	.79
3	進歩的な	.16	-.50	.22	.07	-.13	.28	.04	-.01	-.34	-.00	-.10	.56
26	魅力的な	.27	-.37	.17	.18	.29	.07	.17	-.01	-.18	-.08	-.37	.56
22	開放的な	-.17	-.23	.67	-.11	.18	-.03	.13	.21	.07	-.05	.06	.65
19	個性的な	.15	-.11	.61	.09	.18	.07	.02	-.02	.04	.05	-.00	.46
9	柔らかい	.00	-.26	.60	.10	-.10	-.03	.30	.16	-.06	-.32	-.09	.68
18	視野の広い	.18	-.00	.52	.33	.37	-.16	-.10	.05	.15	-.01	.14	.63
5	清潔な	-.02	.01	.07	.84	.09	-.03	-.03	.00	-.10	.13	.06	.75
34	美しい	-.03	-.12	.01	.76	.14	.00	.03	.08	-.31	.16	-.03	.74
36	陽気な	.03	.00	.17	.12	.82	-.16	.14	.19	-.09	.06	.04	.80
40	明るい	-.22	-.17	.21	.10	.73	-.14	.13	.13	-.17	.06	.12	.76
38	冷静な	.16	.13	.05	.08	-.14	.76	-.03	.12	.04	.02	-.06	.67
37	理性的な	.06	-.10	-.14	-.10	-.18	.73	-.06	.03	-.01	.16	-.03	.64
39	科学的な	.13	-.30	.16	-.07	.12	.62	-.06	-.32	-.01	.09	-.01	.65
13	民主的な	.25	-.00	.30	-.09	-.09	-.08	.71	.04	.03	.02	.05	.68
27	親切な	-.07	-.19	-.17	.10	.22	.13	.62	.19	-.24	.23	-.16	.70
11	温かい	-.07	-.16	.21	.20	.29	-.09	.60	-.02	.17	-.06	.42	.77
16	複雑な	.18	.03	.06	.19	-.27	.26	-.54	.06	-.17	.18	.28	.65
25	派手な	-.20	-.10	.00	.19	.17	-.07	-.01	.70	.01	-.05	.03	.62
21	融通が効く	.04	-.05	.31	-.30	.22	.16	.13	.65	-.10	.08	.03	.72
20	しゃれた	.13	-.25	.31	.46	-.03	.03	.15	.53	.19	-.02	.12	.74
32	豊かな	.19	-.04	-.13	.12	.12	.01	-.13	-.03	-.74	.13	.14	.69
35	礼儀正しい	.06	-.18	-.29	.11	.17	-.15	.13	.08	-.51	.06	.17	.50
28	高尚な	.26	-.05	.22	.28	-.21	.17	-.22	-.21	-.49	.23	-.12	.66
17	ゆったりとした	-.11	.13	.13	.20	.30	-.05	.30	.35	-.46	-.12	.06	.62
1	正直な	.04	.04	-.04	.09	.07	.04	.10	-.00	-.13	.79	.04	.68
4	知的な	.18	-.07	-.17	.26	-.02	.21	-.24	.06	-.04	.68	.07	.70
2	勤勉な	.44	-.04	.16	.09	.02	.12	.16	-.36	.05	.49	-.09	.66
15	安定した	.04	.07	.02	.03	.10	-.07	-.03	.09	-.15	.06	.83	.74
	固有値	3.39	3.27	2.55	2.46	2.45	2.30	2.24	2.19	2.16	2.11	1.67	26.81
	寄与率 (%)	8.49	8.17	6.37	6.15	6.13	5.76	5.59	5.48	5.41	5.27	4.19	67.02

引用文献

- 洲上克義 1984 大学進学決定におよぼす要因ならびにその人的影響源に関する研究 教育心理学研究, 32, 228-232.
- 岩下豊彦 1983 SD法によるイメージの測定 川島書店
- 吉良 侯・佐藤静一・篠原弘章 1974 教育実習体験に関する研究——教師観及び教職意識の変化—— 熊本大学教育学部紀要(人文科学), 23, 165-182.
- 雇用職業総合研究所 1986 職研調査研究報告書 No.51 高校生の職業希望に関する調査研究報告書(中間報告) 雇用職業総合研究所
- 松本卓三 1993 進路選択に関係する職業的同一性・原因帰属・達成動機 進路指導研究, No.14, 17-26.
- 西山佐代子 1990 価値志向性における成育体験の影響(1)——教職への進路志望と教師体験—— 日本心理学会第54回大会発表論文集, 371.
- 小川一夫・田中宏二 1979 a 教師のパーソナリティ 小川一夫(編) 学級経営の心理学 北大路書房 Pp. 25-66.
- 小川一夫・田中宏二 1979 b 父親の職業が息子の職業選択に及ぼす影響に関する研究 教育心理学研究, 27, 272-281.
- 岡本英雄 1972 職業イメージと職業選択 職業研究所研究紀要, No.3, 73-87.
- 仙崎 武 1988 青年の進路形成と職業選択——その発達と指導—— 西平直喜・久世敏雄(編) 青年心理学ハンドブック 福村出版 Pp. 576-602.
- 館 暁夫・松本真作・渡辺三枝子・松本純平 1984 現代大学生に見る職業志向性の一側面 雇用職業研究, No.21, 29-38.

On Occupational Image

Katsumasa MISHIMA* and Takuso MATSUMOTO**

Faculty of Engineering,Okayama University of Science**Ridai-cho 1-1, Okayama 700-0005, Japan****Faculty of Science,**Okayama University of Science**Ridai-cho 1-1, Okayama 700-0005, Japan*

(Received October 5, 1998)

The purpose of this study was to compare differences of occupational image of those who hoped to become teachers with those who hoped to become industrial engineers. The subjects were 171 male university students: 84 of them hoped to become teachers and 87 hoped to become industrial engineers. The subjects rated occupational image on a set of 40 items of SD-scale.

The main results were as follows. It was found that characteristic differences of occupational image were between two groups. On each group, a total of eleven factors were extracted through factor analysis.